

(別紙様式)

都道府県番号	10
都道府県名	群馬県

(  )  
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

前橋市立敷島小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	21
児童数	56	65	60	69	61	59	7	377	

・実践研究の概要

<p>・主題(テーマ) 基礎・基本を身に付け、自ら学び自ら考える児童の育成 ～教科担任制を取り入れた指導体制の工夫～</p> <p>・テーマ設定の趣旨 本校では、新学習指導要領の趣旨のもと、「基礎・基本を身に付け、自ら学び自ら考える児童の育成」を目指して、小学校における教科担任制も取り入れた協力的な指導体制の工夫を研究の重点として取り組んできた。また、本校の学校の教育目標を「かしこく・たくましく・あたたかく」として、「主体的に学ぶ子ども」「心身をきたえる子ども」「心豊かな子ども」の目指す児童像に向けて教育活動に取り組んでいる。本校の児童一人一人が主体的、創造的に生きていくために、協力的な学習指導の工夫を行い、その実態に応じたきめ細かな指導の充実を図ることで「確かな学力」を身につけていけるものと考え、本テーマを設定した。</p> <p>具体的には、研究の中核として協力的な学習指導の工夫を位置づけ、保護者やゲストティーチャーを招いた学習指導を取り入れたり、少人数学習集団による指導や教科担任制による指導を積極的に試行したりして、習熟の程度に応じた指導、課題別学習指導、発展的な学習の指導、興味・関心を重視した指導などを創意工夫することにより、基礎的・基本的な教育内容の確実な定着と、個性を生かす教育の推進によるきめ細かで個に応じた積極的な指導の展開を図れると考え、実践してきた。</p>
---

・実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

～小学校高学年における教科担任制の試行～

基本的な考え方

- ・教師の専門性を生かすことにより、教材研究が一層充実し、各教科における基礎的・基本的な内容を確実に身に付けるための具体的な指導方法が工夫できるであろう。
- ・複数の教師による多面的な評価を生かした、きめ細かな指導が可能となり、基礎的・

基本的な内容の確実な定着が図れるであろう。

各教科等の基礎的・基本的内容を確実に身に付けるための具体的方策

- ・各教科等の基礎的・基本的内容を明確にすること。
- ・基礎的・基本的内容についての指導方法を研究すること。
- ・教師自身の専門性を発揮すること（担任学級だけでなく）。
- ・個に応じたきめ細かな指導。
- ・組織的な校内研修の推進。
- ・理解が不十分な児童に対する補習時間の確保。

小学校において教師の専門性を生かすよさ

- ・各教科等の基礎的・基本的内容を身に付けるための指導が充実する。
- ・専門的な知識に裏付けされた、具体的かつ系統的な指導が充実する。
- ・専門性を生かした学習意欲を高めるための工夫ができる。
- ・教師自身の専門教科への責任感が強まる（プロの教育者としての自覚）。
- ・児童の教科固有の考え方や気付きなどを大切にしたい指導が可能となる。

( ) 実践研究の内容（具体的な実践）

教科担当者の分担を決める

- ・高学年学級担任教師と担任外教師で教師の専門性や希望を生かし、持ち時数が均等になるように配慮した。

教師名	担当教科	学年	教師名	担当教科	学年
A( 6 の 1 担 )	社会	5・6年	E( 音楽専 )	音楽	2～6年
B( 6 の 2 担 )	国語・図工	6年	F( 理科専 )	理科・算数	4～6年
C( 5 の 1 担 )	国語・図工	5年	G( 教務主 )	家庭・算数	5・6年
D( 5 の 2 担 )	体育	5・6年	H( 算TT )	算数	4～6年
算数は習熟の程度に応じた少人数制指導 ( 2 C 4 S 4 T による )					

高学年の時間表を組み直す

- ・教科担任制に合わせて、高学年の各学級の時間表を組み直す。特別教室、体育館、校庭等の使用を含めて組み直した。

児童の学習状況についての情報交換の場をつくる

- ・各教科における児童の学習状況について、週1回程度の情報交換会を実施した。具体的には、毎週水曜日の校内研修の時間の中に、高学年部会を設定し、各教科における基礎的・基本的内容の定着状況について情報交換を行った。
- ・複数の教師による多面的な評価を指導に生かすようにした。

教科担任制についての意識調査（高学年児童対象）

よい点は・・・

- ・新しい先生に教えてもらえて楽しくなった。
- ・より真剣に授業を受けるようになった。
- ・1時間1時間の授業の中身が濃くなったような気がする。
- ・授業が今までより分かるようになった。
- ・どの教科でもやる気がでてきた。

考える点は・・・

- ・宿題が前より多くなった。
- ・担任の先生と話す時間が少なくなった。
- ・学校生活がいそがしくなった。
- ・休み時間が短く感じるようになった。

教科担任制についての意識調査（高学年教師対象）

よい点は・・・

- ・専門教科をもてるので、気持ちよく取り組めた。
- ・たくさんの児童のよい点が発見できた。
- ・教材研究を以前より綿密に行うようになった。
- ・系統的な内容の指導がやりやすくなった。
- ・基礎的・基本的な内容の指導の徹底を意識するようになった。
- ・生徒指導上の問題点を一層の共同体制であたれた。

考える点は・・・

- ・自分の学級の児童との触れ合いが減少した。
- ・時間的なゆとりが減少した。
- ・移動時間（５分休み）が少なすぎる。
- ・行事等で時間割りの変更が大変である。

#### （ ）成果と課題

教師の専門性を生かして教科指導を分担し、教材研究を綿密に行ったことは、各教科における基礎的・基本的な内容についての指導方法の改善に結びついた。その結果、単位時間の授業内容が充実し、基礎的・基本的な内容の定着状況が向上した。

教師の情報交換の場を計画的に取り入れたり、児童一人一人の学習状況についてのデータを共有したりすることによって、複数の教師による多面的かつ客観的な評価活動が可能となり、児童理解に深まりが見られるようになった。このことは、個に応じた指導を充実する上でたいへん有効であった。

自分のクラスが第一と考えがちな小学校の学級王国的考え方から、チームで児童を理解し、指導していこうとする方向へ教師の意識変革がみられ、授業改善や指導意識、生徒指導の充実につながった。

学級担任制のよさを最大限に生かしながら、小学校において教科担任制を実施していくためには、教科の担当の仕方や時間表の組み方などについて、学年ブロック内だけでなく学校全体で考えていかななくてはならない。

各教科における基礎的・基本的な内容を確実に身に付けていくための方策については、さらに具体的に全校体制で考えて行かなくてはならない。その際、児童の負担が増大し、学校生活の楽しさが減少してしまうような方策は避けるべきである。

#### （ ）成果の普及方策

説明会及び研究会

- ・第１・２・３回群馬県学力向上フロンティア事業推進協議会
- ・第１・２回群馬県学力向上フロンティア事業中部地区協議会
- HP作成等の工夫の実績

・<http://www.shikishima-es.menet.ed.jp/>（前橋市立敷島小学校Webページ）に掲載

#### （ ）その他